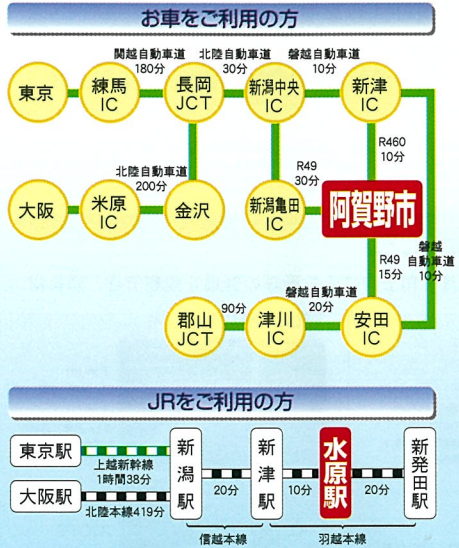


日本のラムサール条約登録湿地

ラムサール条約は湿地に関する国際条約です。ラムサール条約は、湿地の保護と利用管理を目的とした国際湿地条約です。正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。1971年、イランのカスピ海沿岸の保養都市ラムサールで採択されたことから、ラムサール条約と呼ばれています。環境に関する国際条約の先駆的存在で、湿地生態系そのものを対象とする画期的な条約です。



交通のご案内



国・天然記念物『白鳥飛来地』

白鳥の瓢湖

ラムサール条約登録湿地
登録日 平成20年10月30日



白鳥が瓢湖に飛来したのは昭和25年。白鳥保護で最も特徴的なことは、やはり故吉川重三郎翁による餌づけの成功と言えましょう。

白鳥の好む餌は何か？ 与える方法は？ 5年間にわたって研究を続け、昭和29年2月5日、ついに困難だといわれた野生の白鳥の餌づけに成功（この歴史的な珍しい事例で昭和29年2月に県、3月には国の天然記念物の指定を受ける）。現在は午前9時と11時・午後3時の一日3回給餌をしています。

白鳥は一般にシベリアに生息し、5～6月頃産卵、ヒナをかえし、秋になると餌を求めてサハリン（カラフト）方面から北海道に集結、10月上旬からさらに南下して瓢湖に渡ってきます。そして日本で冬を過ごし、2月下旬頃から春の訪れとともにシベリアへ帰って行きます。

■問い合わせ 阿賀野市瓢湖管理事務所 TEL.0250-62-2690 FAX.0250-63-2055
〒959-2013 新潟県阿賀野市水原314-17
阿賀野市役所商工観光課 TEL.0250-62-2510 FAX.0250-61-2037
〒959-2092 新潟県阿賀野市岡山町10番15号



瓢湖の四季

瓢湖および周辺では四季折々さまざまな季節の花があでやかな花暦を見せてくれます。春は瓢湖を囲む桜(ソメイヨシノ)、初夏は「あやめ(ハナショウブ)」や紫陽花。8月にはハスの花が瓢湖湖面を埋め尽くします。

春には桜の上を優雅に飛ぶ白鳥や、桜周辺をのんびり散歩?する白鳥たちをみることが出来るかもしれません。

瓢湖あやめ園

瓢湖南側桜並木に隣接したあやめ園には、6月上旬から7月初旬にかけて215種50万本の『あやめ』が咲きます。園内に作られた島形、瓢箪形の広場を園路で結び、五頭連峰、あやめの映える水鏡、水路を泳ぐ白鳥などを背景にした趣のある公園です。

開花とともに開催される「瓢湖あやめまつり」では、キャラクターショーやおたのしみバザー、お茶会などが行われます。



瓢湖の歴史

瓢湖は農業用水池として人工的に造成されたものです。江戸時代の寛永2年、この地帯が大干ばつにあい、その解決策として翌年(1626年)に当事の領主、新発田領主の溝口宣直(みぞぐちのぶなお)が工事を起し、寛永16年(1639年)に13年の歳月を要し完成しました。また、洪水のときには貯水して下流河川が溢れないよう水害を防ぐ役目も果たしてきました。

瓢湖が完成した当時は、湖の南側にもう一つの小池があり、「外城大堤(とじょうおおつつみ)」と名づけられました。大小2つの四角い池がちょうど瓢箪の形をしていたので、明治40年ころ新潟新聞(現在の新潟日報の前身)に、瓢湖という名で掲載されてから、一般的にこう呼ばれるようになりました。

1909年(M42年)上堤を開墾し道路が作られ、1940年(S15年)には、食糧増産の目的で瓢湖の東側一部を水田化。1991年(H3年)に東側新池と瓢湖大橋が完成、翌年には「白鳥の里」「野鳥観察舎」が作られました。1999年~2000年(平成11年~12年)北側に池が造成され、名称は公募によって「さくら池」「あやめ池」と決定。これによって瓢湖水きん公園の総面積が30.4ヘクタール(瓢湖が3倍)に広がりました。

可憐なオニバスの花

6月上旬、水底の土から種子が発芽し、矢しい形の幼葉が瓢湖湖面上に伸びてきます。葉の成長が盛んな7月頃になると、トゲのある丸い葉を広げるようになります。直径2メートル近くになります。

7月下旬から9月上旬頃まで、早朝より赤紫色の可憐な花を咲かせます。午後には段々明けてしまい、2~3日開花した後、水中に沈み種子を作ります。

固い殻に覆われたオニバスの種は、50年以上も発芽のタイミングを待って休眠していることも!?



地元の恋人たちの間で話題になっているのが「瓢湖ハート伝説」。愛する恋人同士が瓢湖を訪れ、「白鳥ハートを見ることでできた二人は永遠に幸せになれる」という。実は、めったに見ることができないらしい!!



瓢湖の白鳥

瓢湖に飛来する白鳥の種類は、オオハクチョウとコハクチョウです。時には珍しいアメリカコハクチョウも見られます。



オオハクチョウ

【形態】

クチバシの黄色い部分が多く、目から鼻の前方に達しています。体が巨大で首が長く体重6~12kg。成鳥が翼を広げた時の長さは約2.5m。

【生態】

多くはシベリアの北部(森林地帯)、一部は南樺太で繁殖し、冬鳥として日本へ飛来。浅瀬のある湾内や広い湖沼などに群棲します。



コハクチョウ

【形態】

クチバシの黒い部分が多く、額まで達しています。体重5~10kg。成鳥が翼を広げた時の長さは約2m。鳴き声も違います。

【生態】

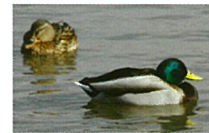
東シベリアの北極海沿岸に繁殖し、オオハクチョウの群れに混じって飛来。行動はオオハクチョウと似ています。

白鳥の生態

- 野性の動物は非常に警戒心が強く、一度ひどい目に会うとその場所を知ってなかなか近寄りません。安全だと知った場合は親しみやすくなるようです。
- 家族はハッキリしていて、いつも一緒に行動します。
- 白鳥の好んで食べるものはマコモなど。人工給餌ではシイナ(米の未成熟のもの)、麦、パンくずなどで、全国各地から送られて来ます。
- 体重は10kg前後ありますので、滑走してから飛び立ちます。
- 着水のときは脚を前方につき出し、水かきで水面を押さえ翼でブレーキをかけます。
- 白鳥は外見から雌、雄の区別がつきません。寿命(飼育の場合)は20~30年だろうと言われています。
- 新しく瓢湖に飛来する白鳥もいますが、毎年渡って来る白鳥が多いようです。

瓢湖に集う水鳥たち

瓢湖の魅力は、水鳥を足元で見られること。10月上旬から3月下旬までに十数種類の野鳥を観察でき、時には珍しい鳥の姿も見られます。



マガモ(上♀下♂)
雄は頭が緑色でクチバンが黄色、雌は全体に褐色で、クチバシのふちが橙。



ホシハジロ(♂)
頭部が赤褐色で、目が赤い。



オナガガモ(上♀下♂)
雄は尾羽が長く尖り、胸の部分が白い、雌は全体に褐色。



ハンビロガモ(♂)
クチバンが長く、しゃもじのよう。



キンクロハジロ(♂)
冠羽が後頭部に垂れ下がり、目が金色、腹が白く、他は黒。



ヒドリガモ(上♀下♂)
頭上部がクリーム色、顔から胸が赤褐色、体は灰色で横が白い模様あり。

珍しい鳥たち



アメリカコハクチョウ
くちばしは、ほとんど黒で基部にわずかな黄色部があるだけ。



スズガモ
雄は背が灰色で冠羽が無い、雌はクチバシの付け根が白い。



ミコアイサ
♂は白い体に黒いすじの模様、♀はクチバシの基部が赤褐色、腹部が黒い模様あり。